

追悼寄稿

北出 弘氏(昭52キ)
を偲ぶ

佐々木 雅人(昭56化)

北出弘先輩は、平成29年1月2日に61歳でご逝去されました。

あまりに早いお別れでした、謹んで哀悼の意を表します。

大阪府出身、昭和52年漁業学科を卒業後、民間企業を経て同年7月大阪府に採用されました。

府庁では、水産行政を中心に、農林水産物の流通対策、大阪湾の環境保全などの業務を担当されました。特に関西空港設立に関しては大阪府より出向、持ち前の飄々とした人柄の中にも一度確約した事は何かあっても守りとおす姿勢は、漁業関係者との間に独特の信頼関係を培い、山積する難問を次々と処置され、円滑な運営に多大の成果を残されました。

平成27年に水産課長として大阪府を退職され、大阪府内水面漁場管理委員会会長として今後の活躍が望まれていました。

私生活では、山登り、スキー、旅行、飲み会をこよなく愛し、「おしよる丸(V世)」の寄港には度々訪船し、昨年約30年ぶりに大阪港に寄港したときは、夜通し車を飛ばし訪れたときの笑顔は今でも目に浮かびます。

退職後は、高校時代の同級生である奥様と旅行に行ったり、同窓会に出席することを一番の楽しみにされていました。

病気が見つかり治療入院などが始まり、それら

が、かなわなくなるということが残念そうでした。

明るく楽しく豪放磊落、それでいて冷静で緻密な判断力を持ち、その知恵、見識は仕事はもちろんのこと、あらゆる場で発揮され、活躍されていました。

何より、人と人の繋がりを大事にし、彼の頭の中では一度聞いた人間関係は全く忘れることなく緻密に繋がり、それを元に自然と周りが繋がっていくそんな特異な才能の持ち主でも有りました。

通夜には、高校時代の友人、大学の同級生をはじめあらゆる年代の方々が駆け付け、故人を偲んで、大いに語り合いました。

病気がわかって以来、大好きなお酒を一滴も口にされなかったとかで、末期の水は奥様とご令嬢が涙ながらにウイスキー「余市」で唇を湿らせておられました。

出棺時には、同窓生で「都ぞ弥生」でお見送りを致しました。

いつもなら彼がリードして楽しいはずの寮歌も、涙で途切れがちで、今までに無い悲しい別離の歌でした。

生前あなたにさせていただいた、多くのことにあらためて感謝しています。

「ほな、また!」と去って行かれましたが、今でもヒョコッとどこからか帰ってきそうな気がします。

合 掌